

「陸・海・空・宇の交通運輸を支える」

担当教員名 北川 徹哉

コース概要

日程 2017年8月29～31日，9月1日
場所 東京都，千葉県，茨城県
参加人数 24名

コースのねらい

社会と経済の基幹である陸上，海上，航空の交通運輸を支える現場，そして地上と宇宙とを結ぶ重要施設を訪れます。業務の魅力と重責を肌で感じましょう。

内容

行程1日目は，竹芝小型船ターミナルより新東京丸に乗船し，東京港の施設を海上で案内していただきました。新東京丸は東京都港湾局が所有する視察船であり，世界各国の要人を案内するときにも使用されます。船内は立派な海上会議室であり，東京港の歴史や施設さらにはゴミ処理・埋立までも，わかりやすい解説により勉強することができました。我が国は海洋国家であり，海上物流とそれを支える港湾設備が高度に発達してきたことを改めて実感した，東京港一周の船旅でした。2日目は成田国際空港を訪れ，ガイドさんの案内で隅々まで勉強しました。学生は，第一ターミナルの屋上で滑走路全体を見わたしながら聞いた説明の中で，各滑走路の識別記号・番号の意味が印象に残ったようです。また，国際空港ならではの各国の文化に配慮された各種施設にも感銘を受けていました。すべてのターミナルを徒歩と連絡バスで回ったのでヘトヘトになりましたが，航空産業の地上業務について多くを学ぶことができました。3日目は筑波宇宙センターを見学しました。国際宇宙ステーションでの生活を想定した閉鎖環境や低圧環境への宇宙飛行士の適応訓練設備などを見ることができました。とくに，国際宇宙ステーションの一部である「きぼう」の運用管制室では，学生は大きなスクリーンとコンピュータ群に圧倒され，地上から24時間体制で「きぼう」を支えている管制官の働きぶりに感動していました。撮影等は一切禁止されているため，スマホやカメラなどは一旦預けることが義務づけられ，宇宙開発は機密とセキュリティの塊であるということを実感しました。4日目は，羽田空港の一面にある日本航空機体整備工場を訪れました。広大なドックに入ると日本航空の機体だけでなく，なんと政府専用機も整備中でした。整備士の方々が機体の各部で慎重に作業をしており，安全で円滑な運航と乗客の命にかかわる重責が伝わってきました。なお，政府専用機が整備されているところはめったに見られず，また，日本航空が整備を請け負う期間も終了するとのこと。今回，偶然にも見ることができたのは幸運でした。政府専用機を撮影することは許可されていましたが，それを使用することは禁じられていますので，その写真を本稿に掲載できないのが残念です。

学習を終えて

「航空業界に興味を持っているので，とくに成田国際空港や JAL 機体整備工場の視察は大変勉強になりました。JAL 機体整備工場では CA の制服を試着するなど，楽しい体験もできました。良い思い出になります。」(1年生・女性)



新東京丸への乗船 筑波宇宙センターにて



成田国際空港にて



日本航空機体整備工場にて